

## 【第 22 回アジアジュニア新体操選手権大会 1 日目】

報告者：皆川夏穂（新体操強化本部）

開催日：2026 年 5 月 23 日（土）～26 日（火）

開催地：キルギス・ビシュケク

5 月 2 日～4 日、キルギスにてアジアジュニア選手権大会が開催され、個人 17 カ国、団体 9 カ国が参加している。日本からは、昨年の全日本ジュニア新体操選手権において、五十嵐杏選手、大塚月愛選手が 2 種目ずつ出場した。また、2 月に行われた選考会の結果を受けて、団体はイオンが出場した。

大会初日は、チーム対抗・種目別予選の前半種目（フープ・ボール）、および団体総合のボール 5 が行われた。

### 【個人：大塚月愛】

《フープ》得点：21.30（DB 4.80/DA 2.80/A 7.05/E 6.65）

スタートのパンシェバランスの軸回しで手からこぼれ、0.5 の落下、パンシェバランスがノーカウントとなってしまった。そのあとは気持ちを切り替え、最後まで伸びやかに踊り切ったが、種目別決勝まであと 0.2 及ばず、スタートのミスが悔やまれる演技となった。しかし、スタートのミスがなければ、22 点後半に乗っていたことを考えると大塚の可能性を感じることができる演技だったため、その評価を自信に変えて、より練習に励んでほしいと願う。

まずは今あるものを最後までしっかりとやり切る力を身につけ、世界の選手たちと対等に戦っていくことができる構成をこなせるようになることを期待したい。

### 【個人：五十嵐杏】

《ボール》得点：21.25（DB4.40 /DA2.40 /A7.45/E7.30）

スタートの空中下ジャンプからの DA が決まり、そこから勢いをつけ、全体的に良いエネルギーで伸びやかさのある演技だった。MG やパンシェバランス、後ろ持ちターンは実施減点のあるものとなってしまい課題が残ったが、3 つの R にはしっかりと挑戦をすることができ、手以外、視野外の受けの価値まで入れ切ることができたことはひとつの成果であった。

今回の経験を機に、さらに難易度の高い R や DA に挑戦し、海外の選手に引けを取らない構成を目指して行ってほしい。

【団体：イオン】

《ボール5》得点：16.85 (DB2.10/DA4.10/A6.00/E5.25)

出場選手：山下紗良、高田晴香、安達莉愛、池田美玲矢、池田香心

初めての国際大会で前日のポディウムから他国の選手のエネルギー、練習スピードに圧倒されながら、とにかく精一杯に臨んだ初日だった。

演技ではCR3の受けの背中打ちが大きく乱れ取りに行ったものの取りきれず落下。中盤の複数投げでは背中打ちの方向が悪く、投げ自体が場外に飛び、落下。その後すぐの交換では予備手具を取りに行き切り替えようとしたものの対応しきれず投げが短くなり落下。エネルギーや演技の大きさを出そうとする姿勢は魅せられたが、3箇所落下に加えて、対処の際のお手つきや足がラインから出てしまう等ミスも相次ぎ実施の面で大きく減点が出てしまった。

正しい基礎と判断力の不足が大きな原因であった為、明日のリボン5では基礎技術への意識の徹底と判断力・対応力に柔軟性をもち、自分たちの演技を最後まで踊りきれるよう臨みたい。

明日は、個人競技の後半種目（クラブ・リボン）、団体種目（リボン5）が行われる。今日の経験を前向きな力に変え、のびのびと演技してくれることを期待したい。